

# 令和5年度第3回岐阜県地方独立行政法人評価委員会（県立病院関係）

## － 議 事 要 旨 －

1 日 時 令和6年2月19日（月） 13:00 ～ 14:20

2 場 所 Web会議（Zoom）

3 出席者

[委 員] 山口委員長、松波委員、地守委員、渡部委員

[専門委員] 伊在井専門委員

[法 人]（地方独立行政法人岐阜県総合医療センター） 桑原理事長兼院長、  
村上副理事長兼副院長兼事務局長  
（地方独立行政法人岐阜県立多治見病院） 近藤理事長兼院長、  
後藤副理事長兼副院長兼事務局長  
（地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院） 大平理事長兼院長  
長屋理事兼事務局長

[設立団体]（岐阜県） 丹藤健康福祉部長、森島医療整備課長、山内課長補佐兼医療企画係長

4 議事等

[議題1] 第4期中期目標の方向性について

[議題2] 公立病院経営強化プランについて

5 配布資料 次第、名簿、資料①-1～①-3、資料②-1～②-4

6 議事要旨

## 議事概要 県立病院関係

### [審議事項：議題1]

#### 第4期中期目標の方向性について

※資料①-1～①-3を評価委員会事務局から説明。

質疑は以下のとおり。

#### 【松波委員】

岐阜県総合医療センターは、岐阜圏域のみならず、県全域をカバーするという責務はあるか。先日竣工した南棟の放射線治療機器などは、各圏域に配置することは現実的ではない。こうした一部機能のみが県全域をカバーするのか、それとも岐阜県総合医療センターのすべての機能が県全域をカバーしているのか。

#### 【事務局】

岐阜県総合医療センターは岐阜圏域の基幹病院であると同時に、県全体の医療水準の向上を図るという役割を持っているという認識であり、県全域を見据えた県立病院として業務を遂行していると考えている。

#### 【松波委員】

そうであれば、病診連携、役割分担、医師派遣といった役割について、岐阜圏域に限らず県全域を対象とした体制を整えるような目標としてほしい。へき地医療拠点病院である下呂温泉病院は政策医療より一般医療を広く実施すべきだと思うが、岐阜県総合医療センターや多治見病院は政策医療をもっと実施し、特に岐阜県総合医療センターは県全域に向けて政策医療を実施するというスタンスがよいのではないか。

### [審議事項：議題2]

#### 公立病院経営強化プランについて

※資料②-1を評価委員会事務局から、資料②-2～②-4を各法人から説明。

質疑は以下のとおり。

### <岐阜県総合医療センター>

#### 【渡部委員】

医師の働き方改革について、現状の残業時間を、診療科ごと、職種ごとなど具体的に統計が取れているか。上限水準はどこを取る予定か。

**【県総合医療センター 桑原理事長兼院長】**

医師全員にビーコンを着用させ、院内に居る時間を記録し、勤怠管理を行っている。そのため、医師の勤務状況については、以前より正確に把握できるようになっている。医師以外の職種については、既に的確に残業時間を把握していると考えており、従来の紙ベースで勤怠管理を行っている。

時間外上限については、B水準を申請しており、既に許可を得ている。

**【松波委員】**

救急車の受入数を増やすといった病院の収入を増やすための努力は、周辺の医療機関の収入が減ることに繋がりがねない。病院の経営改善としてはそれでよいが、地域医療構想を念頭に置いて全体を俯瞰したときにどう考えるか。

**【事務局】**

保健医療計画の中では、そもそも医療にかからない「健康づくり」を目標の一つに掲げているほか、医療費適正化計画を定め、医療費の不合理な増加を抑えることも目標としている。一方で、これらは病院の経営改善と相反するものという認識も持っている。必要な医療を提供いただきながら、バランスを考えて進めていく必要がある。

**【伊在井委員】**

地域連携パスの活用について、ぎふ清流ネットの活用予定はあるか。

医師の働き方改革について、医師会としては、診療看護師ではなく特定行為看護師の育成を進めていただきたいがどのようにお考えか。

**【県総合医療センター 桑原理事長兼院長】**

ぎふ清流ネットの活用について、積極的に活用していきたいと思っており、活用推進について今後検討課題として取り上げていく。

診療看護師について、積極的に採用しているわけではなく、現時点で採用しているわけではない。ただし、一部の診療部門の現場からは診療看護師がいないと診療が継続できないという声も上がっており、取組を進めざるを得ない現状であると考えている。

**<岐阜県立多治見病院>**

**【伊在井委員】**

看護職員修学資金貸付制度はどのように実施しているか。

**【県立多治見病院 近藤理事長兼院長】**

看護師不足解消のため、学生に対し貸付している。一時は人数、金額などを絞っていたが、現在は月5万円に増額し、対象人数も増やしている。

**【伊在井委員】**

准看護学生は対象となっているか。

**【県立多治見病院 近藤理事長兼院長】**

准看護学生は対象となっていない。多治見市の准看護学校が近々終了する予定であり、また、土岐市にある正看護師になるための学校（東濃看護専門学校）の廃校が決まっている。そのため、准看護学生ではなく看護学生の採用を中心に考えている。

県が准看護師が正看護師になる道をどのように残すのか注視しているが、岐阜市や弥富市の学校へ通うことは、当院近隣の学生にとっては難しいのではないかと考えているところ。

**<岐阜県立下呂温泉病院>**

（発言なし）

**<その他>**

**【松波委員】**

情報ネットワークについて、岐阜圏域にはぎふ清流ネットが、東濃にはたじみのネットが、大垣にも大垣市民病院を中心としたネットワークがあるが、県としてこれでよいと考えているか。デジタル化、効率化といった観点からも、一本化すべきではないか。

**【事務局】**

ご指摘のとおり、情報ネットワークが乱立している現状や、電子カルテの提供業者が2社あり相互の情報のやり取りが難しいことなどを課題として認識しているものの、全国的なシステムに影響しており、県として独自のシステムを構築することは難しいため、厚生労働省に対し改善を要望しているところ。

以 上（終了時刻 14：20）